

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立篠崎高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、主任教諭(総務主任兼務)＝事務局長 計2名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主任教諭(総務担当) 計7名
- (4) 協議委員の構成 近隣中学校長、近隣保育園園長、町会長、同窓会会長、PTA会長・副校長、学識経験者2名、警察署、消防署 計10名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

- 第1回 令和7年6月27日（金）15時50分から16時50分まで
内部委員7名、協議委員9名
・令和7年度 協議委員及び評価委員委嘱、協議委員等紹介（自己紹介）、令和6年度学校経営報告、令和7年度学校経営計画について、本校の現状等について（報告）
- 第2回 令和7年11月7日（金）15時50分から16時50分まで
内部委員6名、協議委員5名
・本校の教育活動について
・学校評価アンケートについて
- 第3回 令和8年2月5日（木）15時50分から16時50分まで
内部委員7名、協議委員8名
・本校の教育活動について
・学校評価アンケートについて

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 校評価の観点

本校の学校運営、教育活動、地域との連携等について改善を図ることを目的に、学校評価をアンケート形式で行った。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・方法・回答

実施時期	令和7年12月～令和8年1月
実施対象	生徒・保護者・教職員・地域（江戸川区内中学校・下篠崎町会）
実施方法	・生徒・教職員 Microsoft Forms による Web 回答 ・保護者 Microsoft Forms による Web 回答、アンケート用紙による回答 ・地域(江戸川区内中学校・下篠崎町会) アンケート用紙による回答

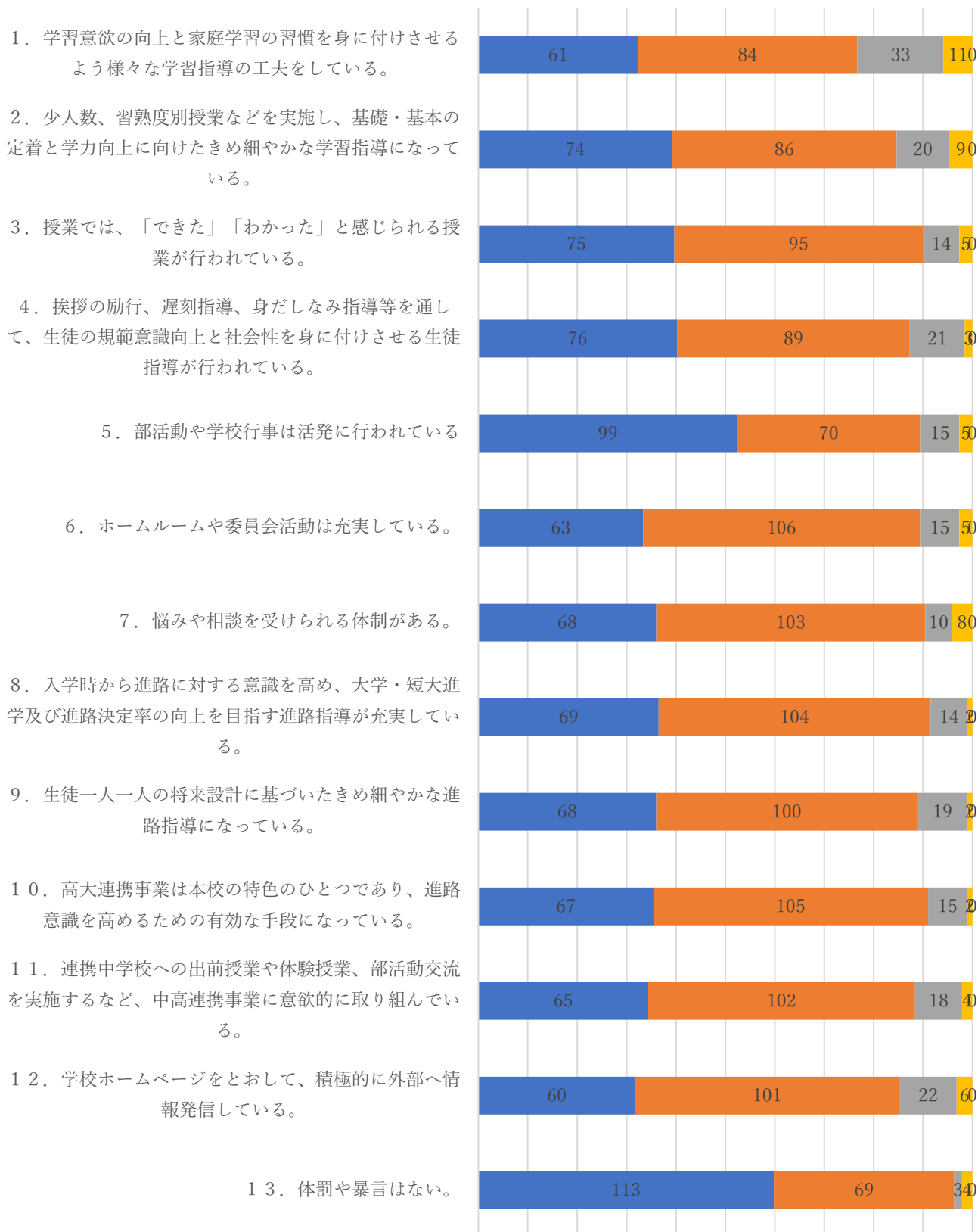
回答数

・生徒	対象：797名	回収：545名	回収率：68%
・保護者	対象：	回収：175名	回収率：21%
・教職員	対象：58名	回収：52名	回収率：90%
・地域	対象：中学校2校・町会	：10名	

3 学校評価アンケートの結果

1 学年生徒（189名）

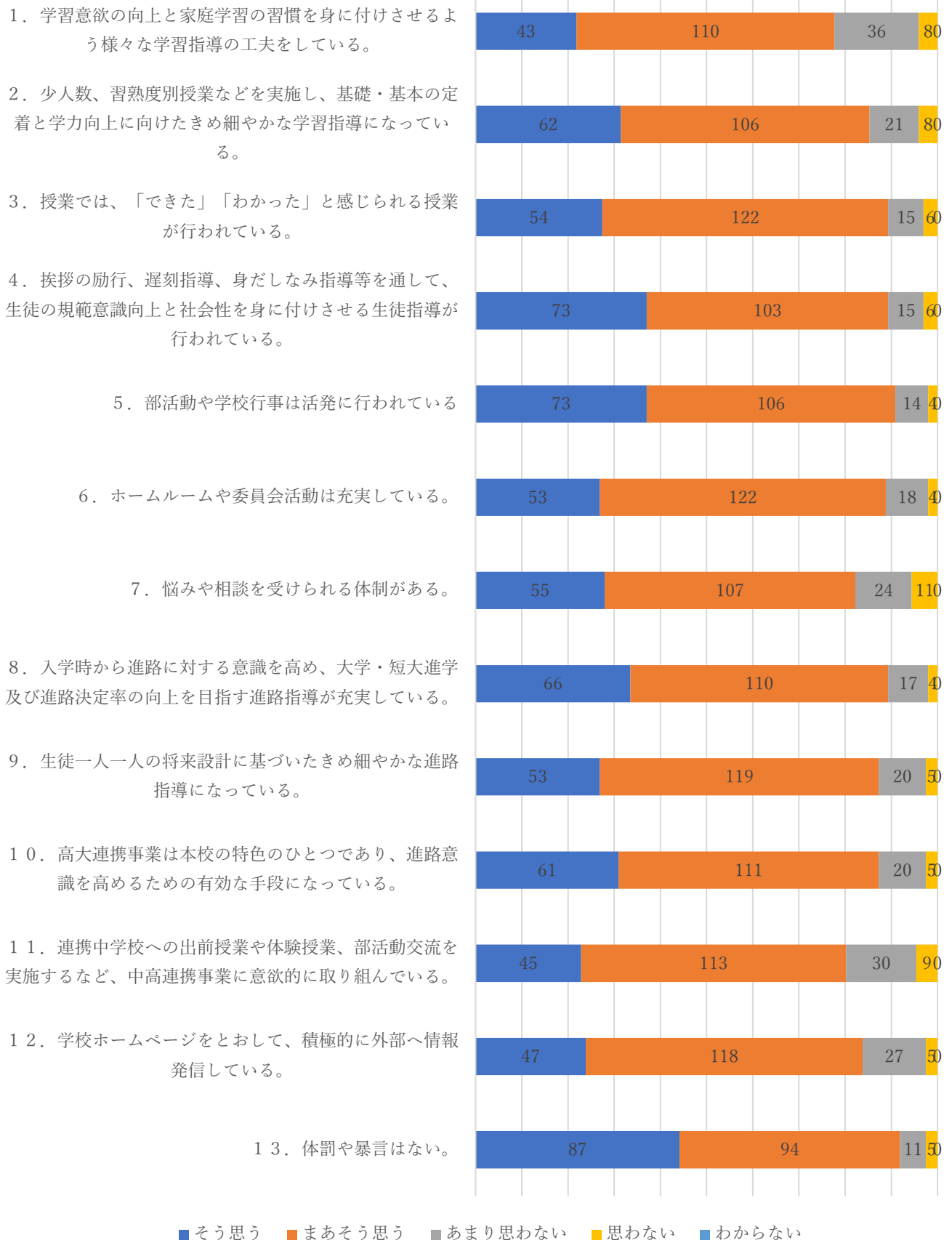
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない

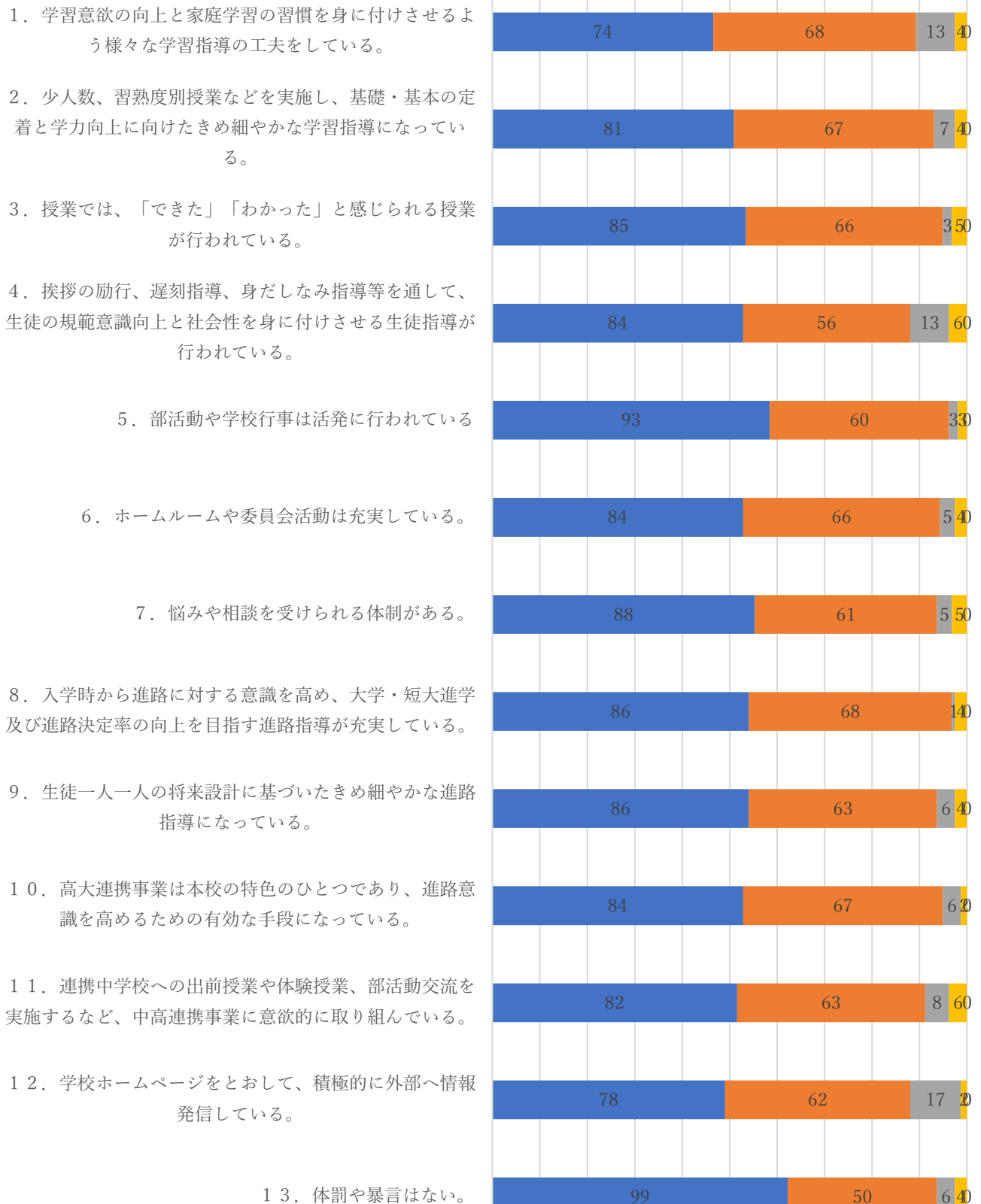
2 学年生徒（197名）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



3 学年生徒（159 名）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない

1 学年保護者（43名）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

1. 学校は、学習意欲の向上と家庭学習の習慣を身に付けさせるような様々な学習指導の工夫をしている。



2. 学校は、少人数・習熟度別授業などの実施により、基礎基本の定着と学力向上に向けたきめ細かな授業実践を…



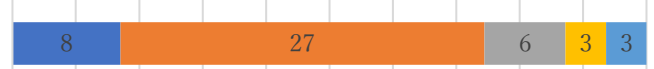
3. お子様は授業が分かると言っている。



4. お子様は交通安全指導について理解している。



5. 学校は、挨拶の励行、遅刻指導、身だしなみ指導等を通して、生徒の規範意識向上と社会性を身に付けさせる…



6. 生徒は、充実した学校生活を送っている。



7. 部活動や学校行事は活発に行われている。



8. 学校は、生徒の悩みや相談を受けられる体制が整っている。



9. 学校は、入学時から進路に対する意識を高め、大学・短大進学及び進路決定率の向上を目指す進路指導が充実…



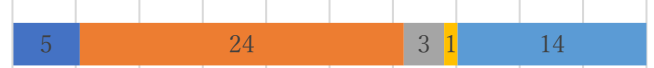
10. 学校は、生徒一人一人の将来設計に基づいたきめ細やかな進路指導を実践している。



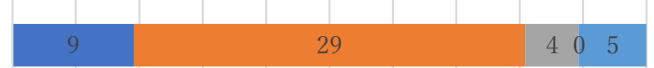
11. 高大連携事業は本校の特色のひとつであり、生徒の進路意識を高めるための有効な手段となっている。



12. 学校は、連携中学校への出前授業や体験授業、部活動交流を実施するなど、中高連携事業に意欲的に取り組…



13. 学校は、学校ホームページをとおして、積極的に外部へ情報発信している。



14. 学校は、体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいる。



■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない

2 学年保護者（56名）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

1. 学校は、学習意欲の向上と家庭学習の習慣を身に付けさせるような様々な学習指導の工夫をしている。



2. 学校は、少人数・習熟度別授業などの実施により、基礎基本の定着と学力向上に向けたきめ細かな授業実践を…



3. お子様は授業が分かると言っている。



4. お子様は交通安全指導について理解している。



5. 学校は、挨拶の励行、遅刻指導、身だしなみ指導等を通して、生徒の規範意識向上と社会性を身に付けさせる…



6. 生徒は、充実した学校生活を送っている。



7. 部活動や学校行事は活発に行われている。



8. 学校は、生徒の悩みや相談を受けられる体制が整っている。



9. 学校は、入学時から進路に対する意識を高め、大学・短大進学及び進路決定率の向上を目指す進路指導が充実…



10. 学校は、生徒一人一人の将来設計に基づいたきめ細やかな進路指導を実践している。



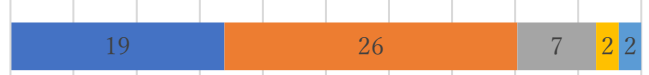
11. 高大連携事業は本校の特色のひとつであり、生徒の進路意識を高めるための有効な手段となっている。



12. 学校は、連携中学校への出前授業や体験授業、部活動交流を実施するなど、中高連携事業に意欲的に取り組…



13. 学校は、学校ホームページをとおして、積極的に外部へ情報発信している。



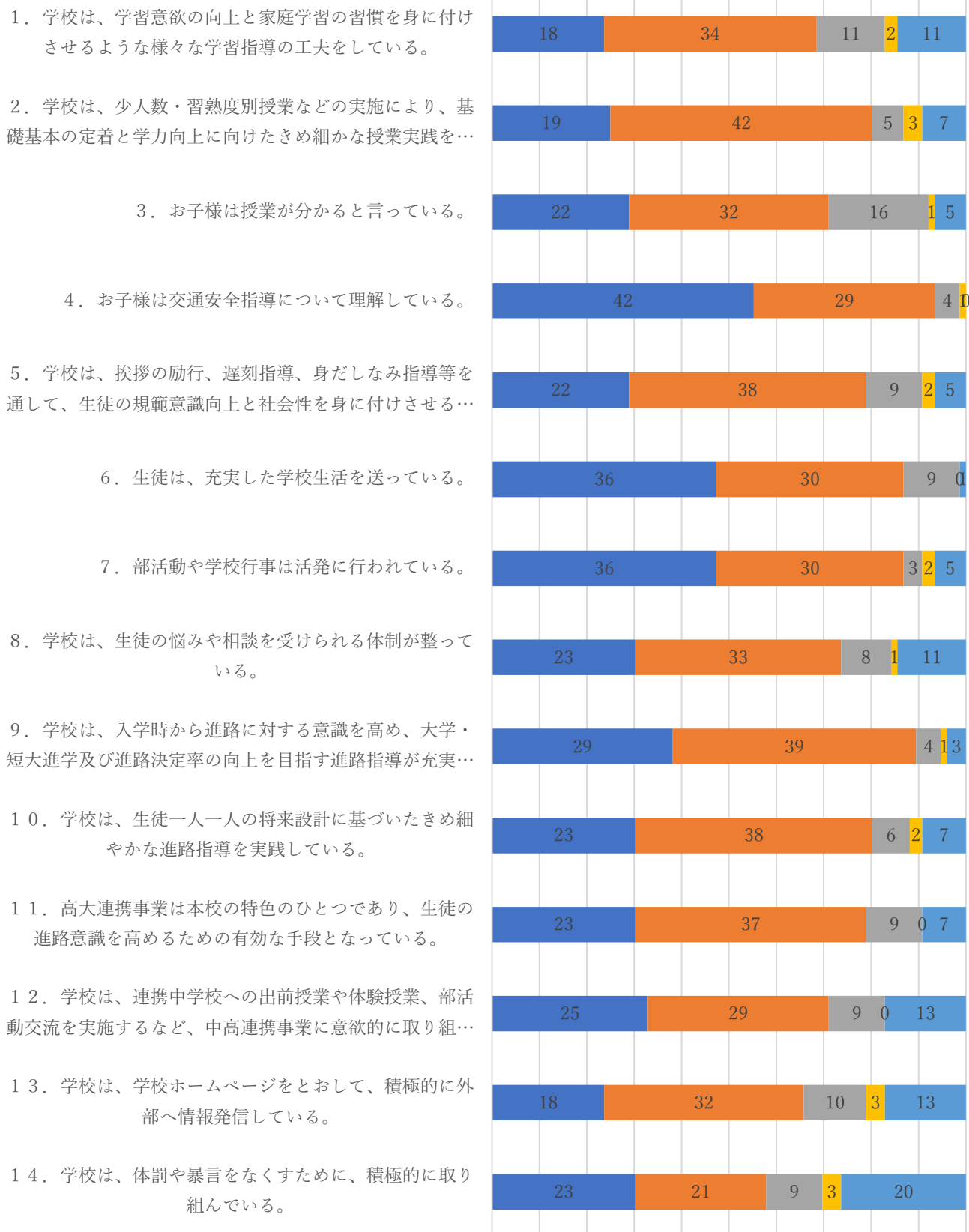
14. 学校は、体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいる。



■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない

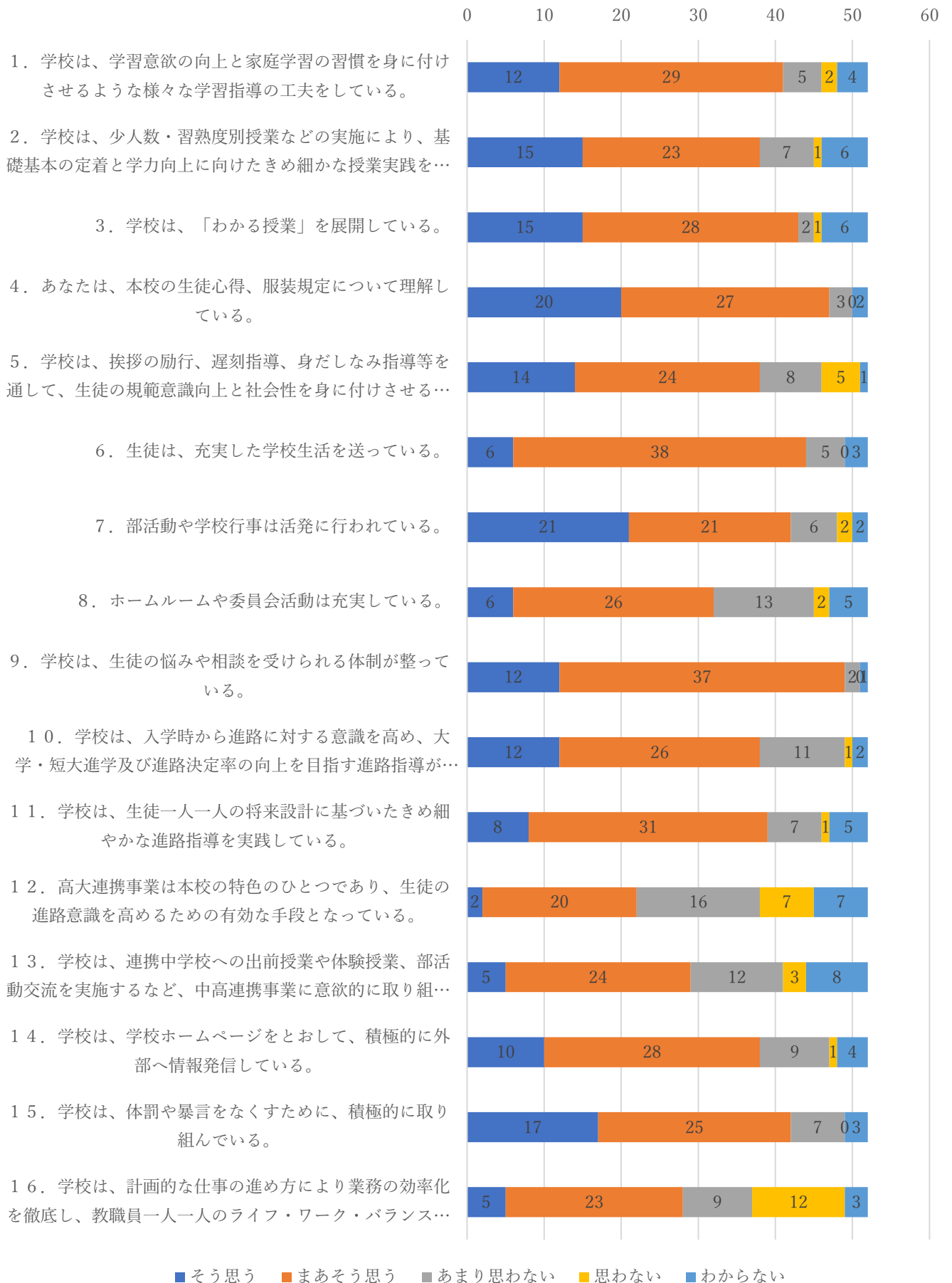
3 学年保護者（76名）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



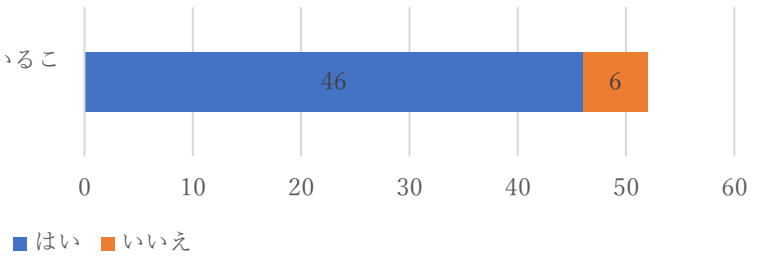
■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない

教職員（52名）①

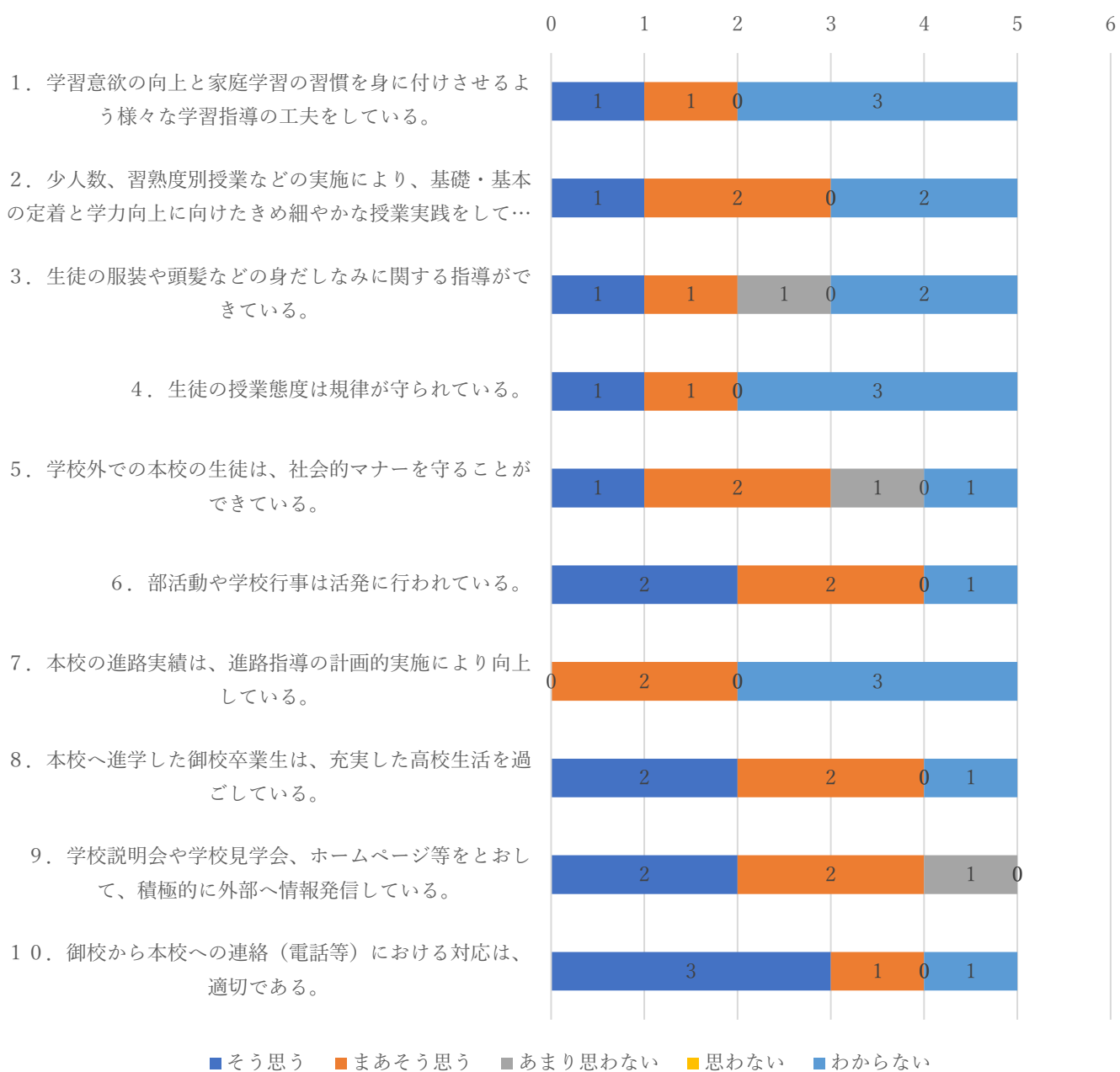


教職員（52名）②

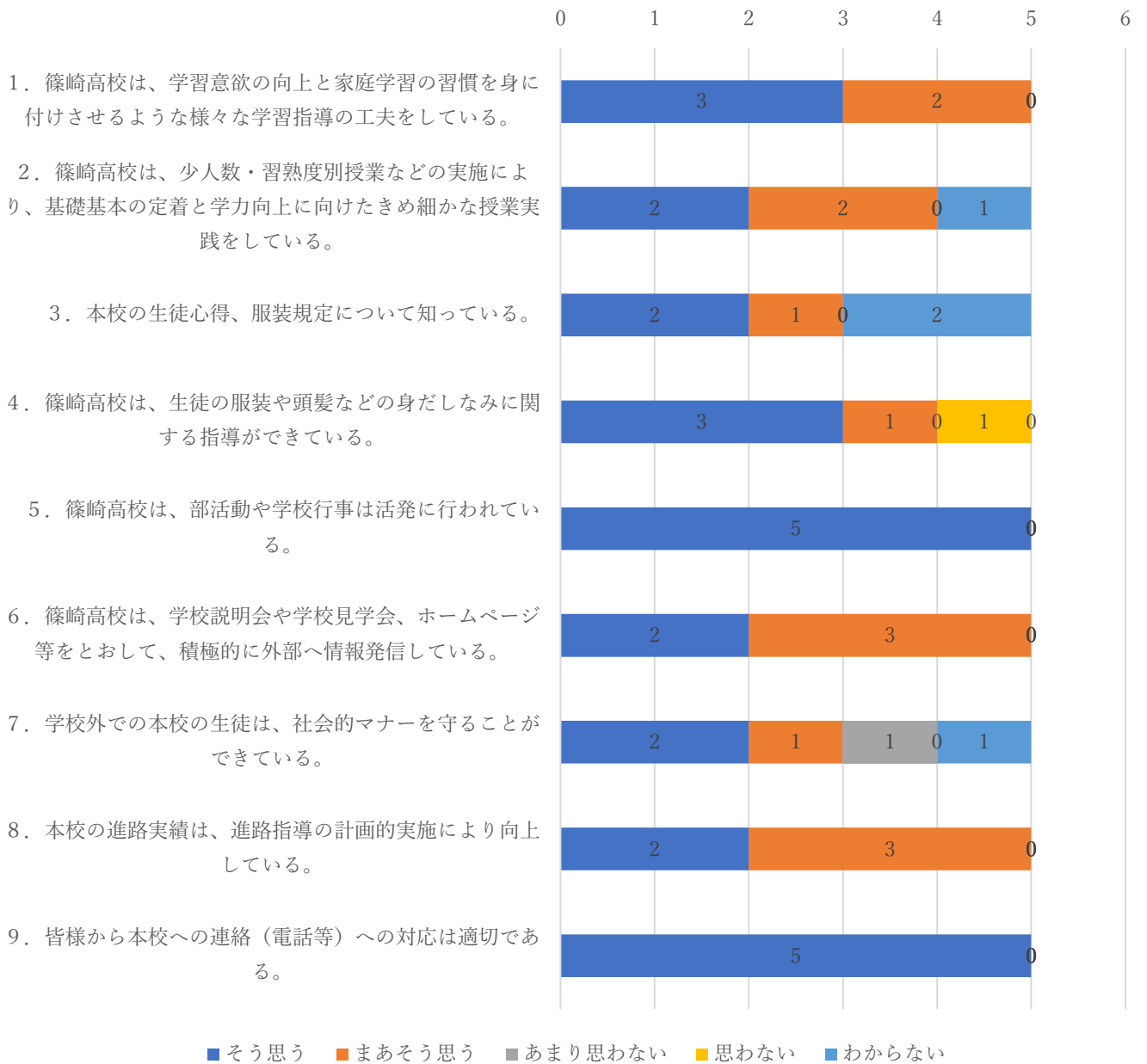
17. あなたは、国や都が働き方改革に取り組んでいることを知っている。



近隣中学校（5名）

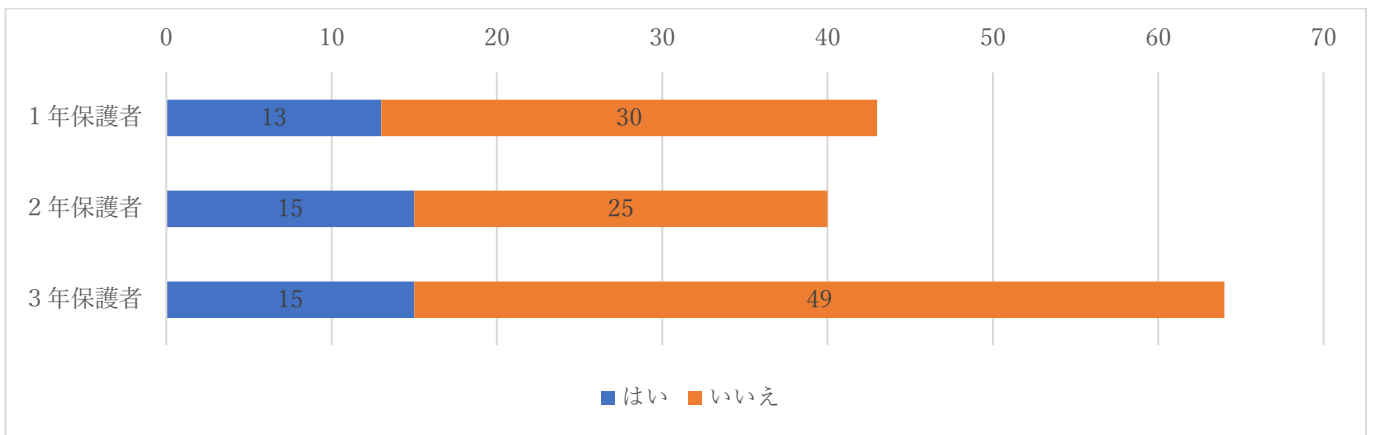


地域社会（5名）

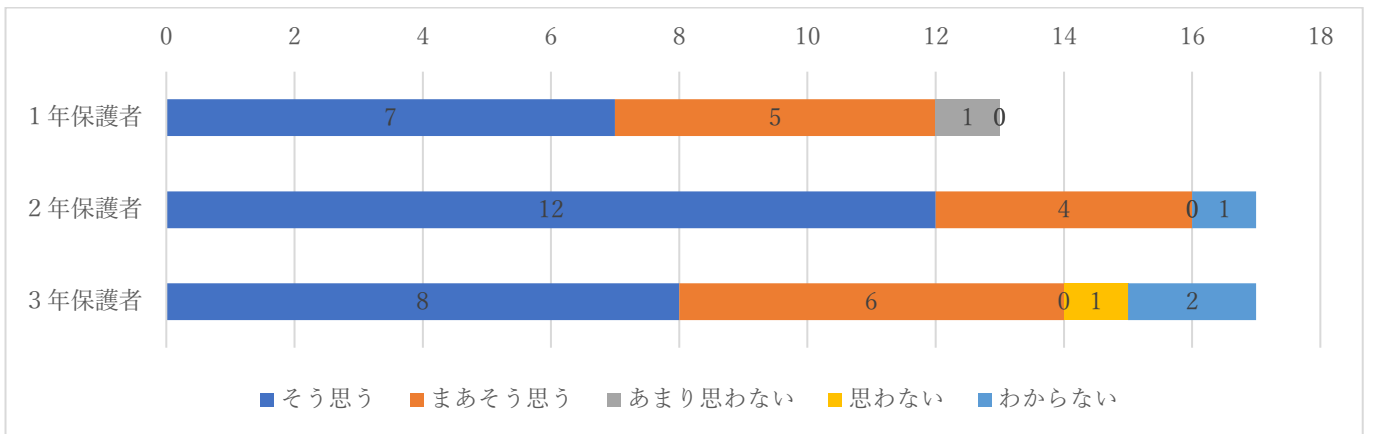


【保護者】

あなたは、経営企画室（事務室）に問い合わせをしたことがありますか。

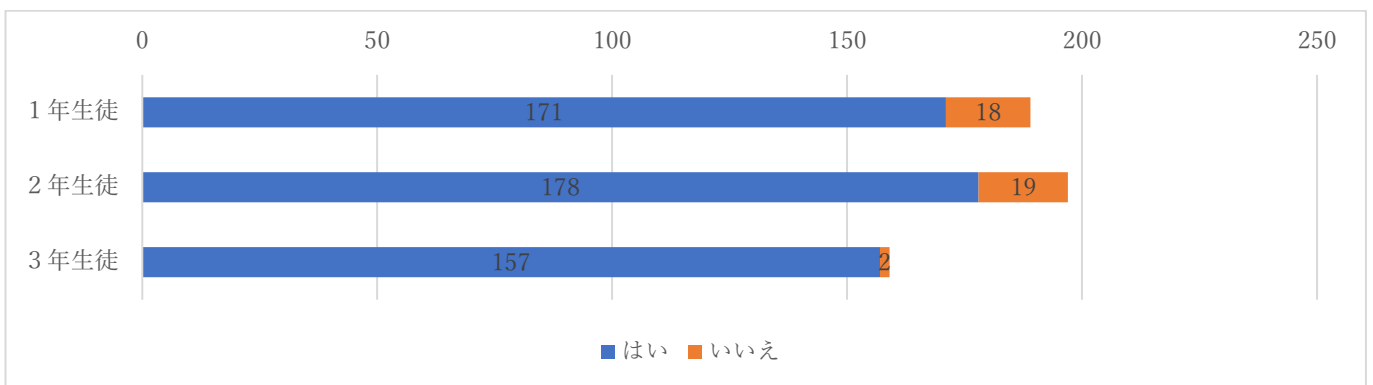


【この質問は前の質問で『はい』と答えた方のみ回答してください】 経営企画室（事務室）の対応はよい。



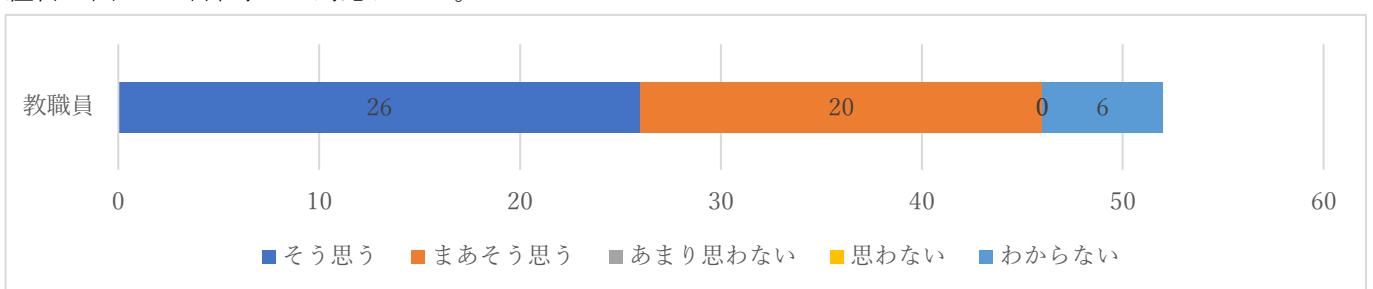
【生徒】

経営企画室（事務室）の対応はよい。



【教職員】

経営企画室の外部等への対応はよい。



4 結果分析と次年度への課題

	生徒	保護者	教職員	近隣中学校	地域社会
教務部に関する項目	1, 2, 3	1, 2, 3	1, 2, 3	1, 2	1, 2
生徒指導部に関する項目	4, 5, 6	4, 5, 6, 7	4, 5, 6, 7, 8	3, 4, 5, 6	3, 4, 5, 7
進路指導部に関する項目	7, 8, 9, 10	8, 9, 10, 11	9, 10, 11, 12	7, 8	8
総務部に関する項目	11	12	13	9	6
学校全体に関する項目	12, 13	13, 14	14, 15, 16	10	9

(1) 教務部による分析と課題

【分析】

- ・「できる」「わかった」という授業を行っている項目について、非常にどの学年も高い。ただ、家庭学習を身に付けさせる工夫や、少人数、習熟度別授業の工夫について、3年生は非常に好意的にとらえられているが、2年→1年となるにつれて、そう思わないという方が増えている。

【課題】

- ・引き続き、生徒の自尊感情を高めていく授業を行う工夫をしていかなければならない。いろいろなテクノロジーの発達に伴い、教員側も変わっていかなければならないと考える。
- ・特に1、2年生の少人数や習熟度別担当の授業については、各教科でいかにして効果を出すことのできる発想が求められているので、検討が必要である。
- ・ここ数年、常勤職員がすべて揃うことがないので、例え休みが出てもバックアップできるシステムや、人員の確保が必要であると考え。教務としてというより学校全体の課題であると考え。

(2) 生徒指導部による分析と課題

【分析】

- ・「挨拶の励行、遅刻指導、身だしなみ指導等を通して、生徒の規範意識向上と社会性を身に付けさせる生徒指導が行われている」に対して、生徒が90%、教員90%と高い値となっていて、生徒と教員の意識が一致しているが、保護者は80%弱となっている。
- ・「部活動や学校行事は活発に行われている」は生徒90%、教員90%の、保護者が85%となっている。地域の方は60%となっている。
- ・「ホームルームや委員会活動は充実している」は生徒が90%である一方で教員70%となっていて、改善が必要である。
- ・「生徒は、充実した学校生活を送っている」については教員と保護者の結果がほぼ一致している。
- ・「学校は、生徒の悩みや相談を受けられる体制が整っている」については、生徒が90%、教員90%と高い値となっているが、保護者は60%弱となっている。昨年度よりも上がっていて、きめ細やかな指導を続けていくことで、保護者の評価も上がっていくと考える。

- ・地域の方々の評価が全体的にやや低く、伝える機会が少ないのが原因であるとする。

【課題】

- ・保護者から生徒の交通ルールを知っているという評価が高い一方で、近隣からの苦情の多くが自転車の乗り方に関するもので、ヘルメット着用率も低く、自転車マナー啓発（ヘルメット着用）を引き続き続けていかなくてはならない。
- ・昨年度に比べ校内盗難が減り、保護者からの信頼が高まる結果となっているが、盗難については呼びかけを継続していく。
- ・今年度の部活動加入率は、1年生で低かったため。部活動を活発にするためには、加入率を上げていく必要がある。
- ・地域住民の方に本校の活動（部活動や生徒会活動）をもっと知ってもらう必要がある。

（3）進路指導部による分析と課題

【分析】

- ・生徒は「進路指導の充実」、「きめ細やかな進路指導」、「高大連携」については、昨年度に引き続き、1,2年生は8割以上が肯定している一方で、3年生は9割を超えた。3年間の体系的な進路行事計画を毎年度見直し実施していることや、全教員による3年生の受験指導、AIを活用した受験指導のサポート、1,2年生の段階から自己PRや面接の対策を行うなどの成果であるとする。
- ・一方、保護者については全ての項目について生徒よりポイントが下がる。また、上級生よりも下級生になるにつれ、よりポイントが下がっていることから、本校の進路活動について保護者の知る機会が少ないのではないと思われる。3年生は三者面談等で保護者に直接話すことが多い一方で、2年生は希望により三者面談か二者面談、1年生は二者面談を実施している。加えて3年生については生徒自身が保護者へ相談することにより、高い基準になっていると思われ、進路行事について直接保護者へ伝える方法が必要であるとする。

【課題】

- ・大学・短大、看護の専門学校の小論文、志望理由書、面接等の指導を全教員で担当するようになっているが、安易にAIを活用し、中身のない状態で受験する生徒も一部見られるようになった。現在、AIの活用はどの分野でも進んでいるため、進路活動においても適切な活用ができるよう指導方法を工夫していく費用がある。
- ・教員や保護者も忙しい状況があり、授業時間の確保もしなければならない状況があるため、かつてよりも三者面談を実施することが難しい。

（4）総務部による分析と課題

【分析】

本年度のアンケート結果において、「学校は、学校ホームページをとおして積極的に外部へ情報発信している」という項目について、生徒は全学年で8～9割が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、学校の情報発信が生徒には概ね浸透していることがうかがえる。

また保護者においても、1・2学年では約8割が肯定的に評価しており、昨年度（全学年が約6割）と比較して改善がみられる。ホームページに加えClassi等を併用した情報発信を継続してきた成果と考えられる。一方、3学年の保護者の肯定的回答は約6割にとどまっている。進路や個別の連絡など、情報の内容が多様化する学年であることを踏まえると、現行の情報発信が保護者の期待に合致していない可能性がある。

【課題】

学校としてホームページ及びClassiを活用した情報発信の取り組みは昨年度よりも意識的、継続的に行われており、評価が向上している点を見ると成果があったといえる。一方で、保護者のニーズに応じて適切に情報が届いているか、発信方法や頻度を引き続き工夫していく必要がある。より分かりやすく活用しやすい情報発信の在り方を検討していくことが課題である。

(5) 経営企画室による分析と課題

【分析と課題】

各質問における企画室の対応については、概ね良好であった。しかし、一部の保護者、1、2年生徒の1割程度より対応に課題がある旨の評価をいただいている。今後も、丁寧な窓口対応を行っていく。

(6) 1学年による分析と課題

【分析】

生徒アンケートについては、全14項目のうち13項目において「1、そう思う」「2、まあそう思う」と肯定的に評価した割合が80%を越えており、その中でも5項目においては90%を越える結果であった。本校での教育活動や学校生活におおむね満足している生徒が多く存在しており、順調な高校生活を送っていることがわかる。1つの項目「学習指導」においてのみ肯定的な評価が70%後半にとどまり、高校に入学してからの学習内容や授業の進度にやや課題や困難を感じている生徒が一定数いることがうかがえる。

【課題】

保護者アンケートについては、主に「学習指導」と「進路指導」の項目がやや低い評価となった。保護者も生徒と同様に、高校での学習に不安を感じており、基礎学力の定着という面において、さらなる指導や取り組みの改善を期待していることがわかる。また進路指導においては、1年生ということもあり、まだ進路希望が定まっていない生徒がほとんどである。校内での進路行事等の内容が保護者に伝わっていない面もあり、生徒だけでなく保護者に対しても、今後の進路活動についての情報発信の必要性がうかがえる。

(7) 2学年による分析と課題

【分析】

- ① 生徒主体で取り組みをさせていくうえで、体育祭のリーダーや文化祭の企画リーダーやホームルーム委員等の生徒が中心になって動くことができるようになってきている。
- ② 遅刻については、2年生になってから新たにしようになった人はいない。また、遅刻者も指導や連絡を徹底していくことで意識して行動することはできる。
- ③ 全員面談等で進路決定の方向性は、ほとんどの生徒が見えてきている。
- ④ 身だしなみについては、学年集会や全校集会、進路行事等でTPOを意識した服装を徹底。進路の面接試験を意識させられた。
- ⑤ 朝読書も2年目となり、取り組みについては徹底されている。読書を日常としている生徒も多数。
- ⑥ 授業中にスマートフォンで注意されることもほとんどなかった。
- ⑦ 今年も学年独自の行事として合唱コンクールとスポーツフェスタを3月に実施。
- ⑧ リテラス検定の合格率が高水準だった。

【課題】

- ① 道筋の予測に乏しく、教員がナビゲートする必要はまだあるが、その補助をすることでうまくいくことが増えた。あとは、周囲とコミュニケーションをとりながら調整していく力が必要になってくる。
- ② 自分で逆算して準備する力が必要であり、色々な場面で訓練していく必要がある。
- ③ 進路については、まだ迷っている生徒の対応が課題。年度末にピックアップして面談が必要。
- ④ 最高学年になる来年度からは、全学年で正装指導の取り組みを広げていければと考えている。また、3年0学期を見据えて、修学旅行後の2月頭に身だしなみ週間を実施。
- ⑤ 昨年同様に年度末にビブリオバトルを実施し、1年間の成果を発表という形で締めたい。
- ⑥ 休み時間と授業の切り替えがうまくいかずにスマートフォンを触ってしまう生徒が数名いたので、教科ごとに切り替えを意識させていく。
- ⑦ 指揮者やパートリーダーを中心に準備を進めていく。スポーツフェスタは、体育委員やHR委員を中心に準備していく。
- ⑧ 一般受験を見据えた英検をチャレンジするよう声掛けしていく。

(8) 3学年による分析と課題

【分析】

回答率については、生徒が60%ほどで2年次より20%弱下回り、保護者は30%ほどで横ばいであった。

(1) 生徒の回答の特徴

「そう思う」「まあそう思う」の肯定的な回答が全項目において85%を上回った。その中で「1 学習意欲の向上と家庭学習の習慣を身に付けさせるような様々な学習指導の工夫をしている」「8. 入学時から進路に対する意識を高め、大学・短大進学及び進路決定率の向上を目指す進路指導が充実している」においては、10%以上の伸長が確認される。特に「8」は昨年度3学年の課題として指摘されたことであり、今年度大きく改善されたことはひとつの成果だといえる。

また、肯定的な回答が90%を上回るものが10項目確認される。とりわけ「7. 悩みや相談を受けられる体制がある」において例年安定した数値を保っており、生徒が教育活動全体を通して概ね安心して学校生活を送ることができているものと判断される。

(2) 保護者の回答の特徴

保護者の回答は、生徒の半数程度にとどまる。その中で「そう思う」「まあそう思う」の回答が85%を上回るものは、4項目見られる。また、同質の質問項目で、生徒の回答と20%以上の差が生じたものに「1」「3」「7」「11」「12」「13」が挙げられる。アンケートの回収数に差があること、回答者が不明な点で簡単に比較することはできないが、表面上、生徒の意識や感覚とは大きく異なることが分かる。「わからない」という回答も、全項目において一定数確認される。

【課題】

自由意見に課題が見られる。意見に書かれた様々な問題の一つ一つに複雑な背景があり、背景に隠された問題の一つ一つを解消していくことが本校の課題だと思われる。全都に関わる教員不足の問題、教員の業務負担の課題、活動時間の不徹底や管理のこと、過去の生徒指導上の問題等さまざまあり、それらが複雑

に絡み合っている。問題が生じたときからこれまで、全校を挙げて解消できることから策を練り、改善してきた。まだなお、課題が残る。校内での情報共有の徹底や建設的で協力的な業務運営のほか、関係機関や地域社会にも協力を求め、生徒が安心して将来を拓くことができるよう、時代に即した安全な環境整備を行うことが必要であり、喫緊の課題である。